

春の訪れ

〒244-0002横浜市塚区矢部町125

電話 045-410-7307 FAX 045-410-7308

E-mail: mail@zenryouji.jp <http://www.zenryouji.jp>

発行責任 善了寺 還る家とともに 担当：三根

暦の上では春を迎えました。厳しい寒さの中にも、暖かな日もだんだんとみられるようになってまいりました。寒さが和らいだ時には希望者と境内を歩行しております。善了寺内の、あまり北風の当たらない陽だまりの一隅に春の訪れを感じさせる花を見つけました。梅の花です。みなさん、梅の花と一緒に写真を撮りました。花言葉にもありますが、凛として、品のある写真をとることが出来ました。



ちぎり絵ボランティアの安藤さんが、春の花の作品をみなさんで作りました。みなさん思い思いの作品を丁寧に作り上げていました。



認知症セミナーを開催しました

淑徳大学介護福祉士養成・助教の木田さんと若年性認知症デイサービスGrASP代表の山崎さん、お二人のコラボ講演会を開催しました。これは私が何年前前からしたためていた企画でした。しかしコロナもあり開催タイミングを伺っていましたが、ようやく開催することが出来ました。大好きなお二人を同日にお招きしてのセミナーはとても感慨深く、感無量でした。

今回のセミナータイトルは「認知症介護の最前線」と名付けたものです。私自身、色々なところで認知症の勉強会などに参加してきましたが、なかには当事者不在で、机上の空論を聞かされているような、違和感を感じる事が何度かありました。世の中は認知症という言葉で溢れていて、認知症・認知症・認知症・・・と「認知症」という言葉

が独り歩きしてしまっているような感覚を覚えています。障がい者に関しては、その障がいはい一つの個性と捉える考え方も広がってきている中、認知症に関してはそのような捉え方がされるケースは少なく、認知症に対しネガティブな印象を持つ方が多いように感じています。ですが、今回の講師のお二人は、認知症を時にポジティブに捉え、介護を通じて新しい文化が形成される道しるべとなるような、熱い気概を持った方々でした。当日は月曜の夜にもかかわらず30名を超える多くの方にご参加いただき、熱気を帯びた充実した講演会となりました。

講演はまず木田さんからスタート。東海テレビ制作の発達障害に焦点を当てた「見えない障害と生きる」の動画を起点に「普通」とは何か、聴講者のこころに疑問を問いかけてきます。そしてケアの在り方は、介護者から要介護者への一方行的なものではなく、相互的・包摂的な多様なものだという、ニューカルチャーへと展開するお話は、介護に関わる多くの方々にとっての希望であり、大きな励みとなる内容でした。

続いて山崎さんは、ご自身の生い立ちから若年性認知症デイサービスGrASPでの取り組みを紹介してくれました。雑な言い方をしてしまうと、年が若くて体力のある認知症の方の対応は時に大変であろうに、敢えてそこにチャレンジし、「独りぼっちじゃない、仲間がいるんだ」と訴える彼の情熱もまた、若年性認知症を患った方々にとって、大きな希望であると感じました。

その後のトークセッションでは、老年期認知症と若年性認知症との違いはとの間に山崎さんが長い沈黙の後「分かりません」と回答し、分からないものを分からないと言うことの出来る山崎さんの実直さに、多くの聴講者が惹きつけられたと思います。

最後に4月から群馬医療福祉大学に栄転される木田さんへ、教え子さんから花束のプレゼントと、記念写真の撮影会があり、会終了後も多くの方々が講師のお二人と会話や写真を撮られ、余韻がすごいセミナーでした。今回のセミナーを通じて、学びなおしや感想を参加者でシェアする大切さを痛感しました。これからもまた、現場や当事者の視点を大切にしたいセミナーを開催していきたいとおもいます。よろしくお願いいたします。 三根周



編集後記

2月に入って長男の嫁の友香と、輪島市の避難所で炊き出しのお手伝いに行ってきました。避難所では、被災して車で寝泊まりしている料理屋の店主が、約200人の食事を朝から晩まで作っていました。そのお手伝いを、福井のお寺さんのチームが夜中の1時に出発し5時間かけて6時に到着。朝食を7時に出して、昼食夕食を出して19時に帰路に着きます。その数時間後に他のチームが福井を出発するというのを1か月間続けていました。その福井の住職さん坊守さんと一緒に活動させていただきました。夕方になると、子供や避難所以外の地域の方も「なんかな～い？」と鍋を持って立ち寄られますが、絶対断らず何にもなくてもその場でなんか作ります。水道が出ず、1日に1回自衛隊に給水してもらいポリタンクにためた水を使いました。旅館に2次避難した方が、体育館に寝泊まりしている時より布団やお風呂や食事は楽になったが、一人の時間が多く悲しみと不安で悪い事ばかり考えるから、元の避難所に帰ってみんなと話したいと泣き崩れている方にも会いました。能登は、元々過疎地域であり、避難した後も帰らない人も多く、元のような町を復元できない、復興と新しい町づくりの危機感が深刻な課題のようでした。関東では、報道が少ないですがかなり大変な状況で、お寺もたくさん被災していて月末には住職が被災地に入る予定です。